

平成 29 年度太平山観光開発株式会社決算報告書

1 総括事項

(1) 名称 太平山観光開発株式会社

(2) 設立年月日 昭和 43 年 8 月 28 日

(3) 資本金 金 50,000,000 円

(4) 市の出資額 金 235,100,000 円

(5) 役員の名
代表取締役社長 中野 鋼 一
専務取締役 鈴木 善 昭
取 締 役 齊 藤 孫 市
" 佐々木 宏 行
" 佐 藤 武 義
" 渡 邊 綱 平
監 査 役 須 藤 二 郎
" 藤 井 明

(平成 30 年 6 月 1 日現在)

(6) 事業の概要

太平山観光開発株式会社は、昭和43年8月、太平山地域一帯の観光開発を目的として、秋田市観光協会役員が発起人となり、秋田市から出資を受けて株式会社として発足しました。

平成元年3月、当社は太平山リゾートパーク整備事業を推進する第三セクターとして、資本の充実と組織の強化を図るため新体制を発足させ、平成3年8月に「クアドーム ザ・ブーン」、平成4年12月に「太平山スキー場 オーパス」をオープンし、平成6年8月の「テニスの森」、「オートキャンプ場」のオープンに伴い、秋田市からその業務を受託するとともに、平成8年度からは、太平山リゾート公園内各施設の管理を受託しております。

平成9年4月には、秋田市がクアドームに「展望風呂付大広間」を増設、リゾート公園内に「トレーラーハウス」を新設し、引き続きその管理運営を受託し、さらに平成10年4月には、「秋田市森林学習館 木こりの宿」の管理運営を受託しました。

平成11年4月からは、クアドーム等のリゾート公園施設の運営形態が公設公営となり、施設の管理運営と維持管理業務を行う受託事業部門と料飲・物販等を行う自主事業部門を運営していくこととなりました。また、同年、秋田市が「新オートキャンプ場」を新設したことに伴い、その管理運営を受託しております。

平成12年4月から「花公園」エントランス広場の一部の維持管理を受託し、平成15年4月からは、「太平山グラウンド・ゴルフ場」の維持管理と管理運営を受託しました。

平成18年4月から地方自治法の一部改正に伴い、指定管理者制度へ移行となり、当社は指定管理者としてリゾート公園ならびに各施設の維持管理と管理運営を行っております。

なお、当社は定款第2条の規定に基づき、次の事業を行うことができます。

- ① 旅客索道事業
- ② 温泉供給事業
- ③ 太平山リゾート公園内の造園事業
- ④ 都市公園等受託管理業務
- ⑤ 造園、土木、植栽及び緑化事業の請負、設計、施工並びに管理業務
- ⑥ 観光施設、体育施設の経営
- ⑦ 旅館、飲食店、売店などのサービス事業
- ⑧ 地域産業に関する商品の企画・立案および販売
- ⑨ 各種イベントの企画、制作、運営管理
- ⑩ 農・林業およびその生産物の加工、販売
- ⑪ 労働者派遣事業
- ⑫ 前各号に附帯する一切の事業

2 平成29年度事業実績と決算の状況

(1) 事業実績

【概 況】

当期の秋田県内の経済等の状況は、7月22日に発生した秋田県豪雨災害により、多大な被害を受けたことから、一時的に個人消費に影響があったものの、その後は、全体として緩やかな持ち直しの動きとなったようです。

このような状況のもと、秋田市から指定を受け、管理運営する施設全体の利用者数は、前期実績値を下回りました。

施設全体の利用者数が前期実績値を下回った主な理由は、天候不順と秋田県豪雨災害の影響によるものと考えられ、特に中心施設であるクアドーム施設とスキー場施設の利用者数が減少しています。

クアドーム施設は、前期と比較して9千人を超える利用者数の減少となっており、大雨等の天候不順に加え、緊急修繕の必要性からプール室天井鉄骨補強材撤去工事のため、臨時休館したことも減少要因となりました。

スキー場施設は、前期と比較して2千人を超える利用者数の減少となっております。

当初12月17日から3月18日までの利用期間でありましたが、積雪不足により、12月29日から一部の利用を開始したことで、12日間の利用期間短縮となったものです。

近年の少雪傾向に対応するため、人工降雪機を昼夜フル稼働させてゲレンデ整備を行い、12月29日から一部滑走可能としたものの、その後も積雪不十分のため、ゲレンデの安全性確保に至らず、結果的に全面滑走は1月24日以降となりました。

事業全体の営業成績は、施設利用者数の減少に伴う利用料金収入および自主事業売上の減少に加え、原油価格上昇による光熱水費の大幅な増加によって、当期は、損失となったものです。

過去10年間に渡って単年度利益を計上して来ましたが、当期の損失を踏まえ、改めて経営課題に取り組み、経営の健全化を目指します。

【営業の成果】

指定管理施設全体の利用者数は、307,302人であり、前年比94.5%、17,901人減少となりました。（計画比93.6%、21,098人減少）

事業全体の売上高は、613,050千円であり、前年比98.1%、12,160千円の減少となりました。（計画比98.0%、12,499千円減少）

事業全体の経常利益は、-6,810千円であり、前年比で14,570千円の減少となり、法人税、住民税および事業税235千円を含め、当期純利益は、-7,112千円となりました。（計画比で19,112千円減少）

各施設別利用状況等の概要は、次のとおりです。

① クアドーム施設「ザ・ブーン」

クアドーム施設の利用者数は205,900人であり、前年比95.4%、9,951人の減少となりました。（計画比94.2%、12,600人減少）

利用者数が前年値を下回った主な理由は、大雨等の天候不順に加え、緊急修繕の必要性から、夏季繁忙期前にプール室天井鉄骨補強材撤去のため、臨時休館したことによるものです。7月下旬から8月下旬の夏季繁忙期間は、前年に引き続き「おどろき体験テーマパークウゴカス」等のイベントを実施し、多くの家族連れで賑わいました。

② スキー場施設「オーパス」

スキー場施設の利用者数は33,501人であり、前年比93.7%、2,249人の減少となりました。（計画比95.7%、1,499人減少）

利用者数が前年値を下回った主な理由は、人工降雪機を昼夜フル稼働させてゲレンデ整備を行い、12月29日から一部滑走可能としたものの、その後、積雪不足のため、全面滑走が可能となったのは、前年より9日遅れた1月24日となったことによるものであります。開設25周年記念イベントとして、スノーチュービング等を設置し、利用促進を図ったところ、多くの親子連れで賑わいをみせました。

③ 公園施設「グリーンパル等」

グラウンド・ゴルフ場やテニスコートなど公園施設の利用者数は46,482人であり、前年比91.9%、4,075人の減少となりました。(計画比92.2%、3,918人減少)

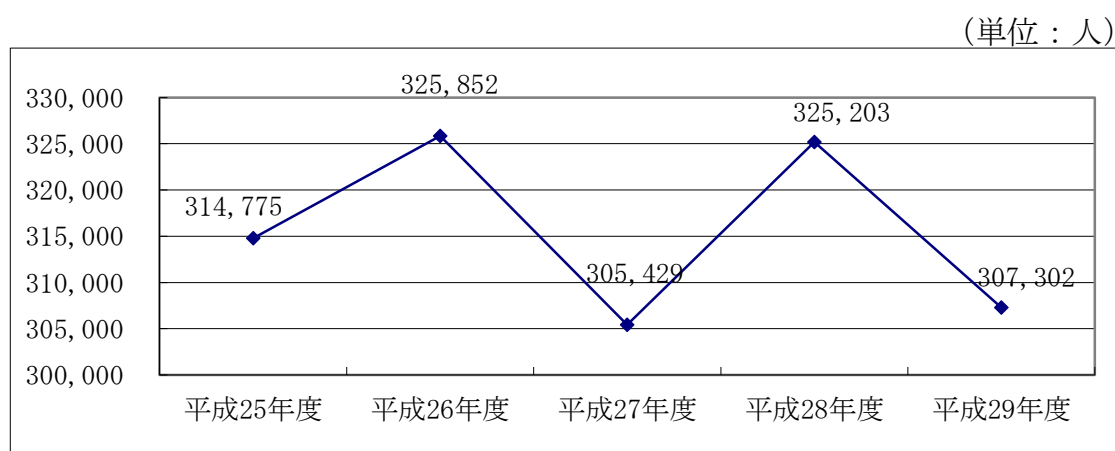
利用者数が前年値を下回った主な理由は、各施設総じて減少していることから、大雨等の天候不順が影響したものと考えられます。

④ 森林学習館施設「木こりの宿」

森林学習館施設の利用者数は21,419人であり、前年比92.9%、1,626人の減少となりました。(計画比87.4%、3,081人減少)

利用者数が前年値を下回った主な理由は、宿泊利用者数が減少したことによるものです。

有料施設全体の利用者数（5年間）



区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
クアドーム	199,800	209,374	207,517	215,851	205,900
スキー場	44,865	43,231	22,879	35,750	33,501
公園施設	44,841	47,604	49,603	50,557	46,482
森林学習館	25,269	25,643	25,430	23,045	21,419
施設全体	314,775	325,852	305,429	325,203	307,302

※平成27年度：暖冬少雪によりスキー場の利用者数が減少

平成28年度：有料イベント「ウゴカス」の実施によりクアドームの利用者数が増加

平成29年度：秋田県豪雨災害など天候不順により施設総じて利用者数が減少

会社全体の営業成績（5年間）

（単位：千円）

区 分	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
売 上 高	571,861	604,887	576,707	625,210	613,050
（内指定管理収入）	(303,895)	(329,773)	(343,821)	(348,062)	(354,458)
売 上 原 価	58,453	64,093	56,492	62,372	54,389
販 売 管 理 費	505,487	524,942	519,334	559,990	570,698
（内減価償却費）	(2,760)	(6,154)	(5,195)	(4,376)	(4,289)
営 業 損 益	7,921	15,852	881	2,848	-12,037
営 業 外 損 益	5,036	6,653	3,621	4,912	5,227
経 常 損 益	12,957	22,505	4,502	7,760	-6,810
特 別 損 益	0	-11	-28	1,285	-67
（内補助金収入）	0	0	0	0	0
法 人 税 等 充 当 額	6,479	7,562	1,208	2,301	235
当 期 純 損 益	6,478	14,932	3,266	6,744	-7,112

※平成27年度：暖冬少雪により、スキー場等冬期事業が減収減益

平成29年度：天候不順による売上高の減少と原油価格の上昇に伴う経費の増加から損失決算

施設の運営開始等経過

- (ア) クアドーム ザ・ブーン 平成 3年 8月29日運営開始（クアドーム施設）
- (イ) 屋外温泉25mプール・露天風呂 平成 4年 4月26日増 設（クアドーム施設）
- (ロ) 太平山スキー場 オーパス 平成 4年12月20日運営開始（スキー場施設）
- (エ) 100万ドル・ハミングコース 平成 5年12月19日改 修（スキー場施設）
- (オ) 豊敷和室2室・豊敷広間1室 平成 6年 8月22日増 設（クアドーム施設）
- (カ) テニスの森・オートキャンプ場 平成 6年 8月 1日運営開始（公園施設）
- (キ) 展望風呂付大広間 平成 9年 4月25日増 設（クアドーム施設）
- (ク) トレーラーハウス 平成 9年 4月25日運営開始（公園施設）
- (ケ) 森林学習館 木こりの宿 昭和63年 4月 1日運営開始（森林学習館施設）
平成 9年 4月 1日受託開始（森林学習館施設）
- (コ) オートキャンプ場 平成11年 4月27日運営開始（公園施設）
- (サ) 新オートキャンプ場 平成11年 7月31日増 設（公園施設）
- (シ) 花 公園 平成20年 7月24日開 設（公園施設）
- (ス) グラウンド・ゴルフ場 平成15年11月 1日受託開始（公園施設）
- (セ) 植 物 園 平成24年 4月 1日受託開始（公園施設）

(2) 決算の状況

貸借対照表

平成30年3月31日

(単位：円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】	65,894,759	【流動負債】	57,428,954
現金及び預金	55,083,120	買掛金	1,912,106
売掛金	775,328	一年以内長期借入金	12,000,000
商品	5,498,404	未払消費税等	6,071,300
貯蔵品	437,203	未払金	36,252,235
立替金	11,734	仮受金	280,400
未収入金	2,873,180	預り金	795,913
仮払金	182,990	未払法人税等	117,000
仮払法人税等	1,032,800	【固定負債】	78,234,660
【固定資産】	15,867,836	長期借入金	72,000,000
(有形固定資産)	(13,919,743)	リース債務	6,234,660
建物	1,818,921	負債の部計	135,663,614
建物附属設備	82,254		
構築物	32,102		
機械装置	1		
車両運搬具	931,015		
工具器具備品	4,426,950		
リース資産	6,628,500		
(無形固定資産)	(1,214,953)		
電話加入権	1,214,953		
(投資その他の資産)	(733,140)		
出資金	200,000		
預託金	84,470		
長期前払費用	358,670		
保証金	90,000		
資産の部計	81,762,595		
		純資産の部	
		【株主資本】	-53,901,019
		【資本金】	50,000,000
		【利益剰余金】	-103,901,019
		(当期首残高)	-96,789,316
		(当期純利益)	-7,111,703
		(当期末残高)	-103,901,019
		純資産の部計	-53,901,019
		負債・純資産の部計	81,762,595

損益計算書

自 平成29年4月 1日

至 平成30年3月31日

(単位：円)

科 目	金 額	
【 売 上 高 】		
売 上 高	613,049,858	613,049,858
【 売 上 原 価 】		
期 首 棚 卸 高	5,919,663	
仕 入 高	53,967,381	
合 計	59,887,044	
期 末 棚 卸 高	5,498,404	54,388,640
売 上 総 利 益		558,661,218
【販売費・一般管理費】		570,698,652
営 業 利 益		-12,037,434
【 営 業 外 収 益 】		
受 取 配 当 金	3,000	
補 助 金	1,371,813	
雑 収 入	4,412,581	5,787,394
【 営 業 外 費 用 】		
支 払 利 息	461,065	
雑 損 失	98,775	559,840
経 常 利 益		-6,809,880
【 特 別 損 失 】		
固 定 資 産 除 却 損	67,211	67,211
税 引 前 当 期 純 利 益		-6,877,091
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税		234,612
当 期 純 利 益		-7,111,703

キャッシュ・フロー計算書

(間接法)

自 平成29年4月 1日

至 平成30年3月31日

(単位：円)

項 目	金 額
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	
税引前当期純利益	-6,877,091
減価償却費	4,289,404
受取利息及び受取配当金	-3,000
支払利息割引料	461,065
有形固定資産売却・除却損	67,211
売掛未収の増加額	-2,249,373
棚卸資産の減少額	279,574
買掛未払の増加額	9,475,716
未払消費税等の減少額	-594,000
その他の増減額	-903,007
(小 計)	3,946,499
利息及び配当金の受取額	3,000
利息及び割引料の支払額	-461,065
法人税等の支払額	-1,815,212
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,673,222
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	-5,826,519
その他の増減額	-1,298
投資活動によるキャッシュ・フロー	-5,827,817
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	
長期借入金の返済による支出	-12,000,000
その他の増減額	-2,069,280
財務活動によるキャッシュ・フロー	-14,069,280
IV 現金及び預金に係る換算差額	0
V 現金及び預金の減少額	-18,223,875
VI 現金及び預金期首残高	73,306,995
VII 現金及び預金期末残高	55,083,120

株主資本等変動計算書

自 平成29年4月 1日
至 平成30年3月31日

(単位：円)

	株 主 資 本						株主資本 合計	評価・換算 差額等合計	新株予約権	純資産 合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		自己株式				
		資本準備金	他資本剰余金	利益準備金	他利益剰余金					
前期末残高	50,000,000				-96,789,316		-46,789,316			-46,789,316
当期変動額										
当期純利益					-7,111,703		-7,111,703			-7,111,703
当期変動額合計					-7,111,703		-7,111,703			-7,111,703
当期末残高	50,000,000				-103,901,019		-53,901,019			-53,901,019

	利益剰余金の内訳	
	繰越利益剰余金	利益剰余金合計
前期末残高	-96,789,316	-96,789,316
当期変動額		
当期純利益	-7,111,703	-7,111,703
当期変動額合計	-7,111,703	-7,111,703
当期末残高	-103,901,019	-103,901,019

個 別 注 記 表

自 平成29年4月 1日

至 平成30年3月31日

I 重要な会計方針に係る事項に関する注記

資産の評価基準及び評価方法

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法
有価証券・・・総平均法による原価法
- (2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法
商品・貯蔵品・・・最終仕入原価法による原価法
- (3) 固定資産の減価償却の方法
有形固定資産・・・定率法
無形固定資産・・・定額法
リース資産・・・リース期間定額法

その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

- (1) リース取引の処理方法
リース物件の所有権が借主に移転するもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっている。
なお、未経過リース料総額は、5,218,577円となっている。
- (2) 消費税の会計処理
税抜方式で計上している。

II 貸借対照表に関する注記

有形固定資産の減価償却累計額 85,218,577円

III 株主資本等変動計算書に関する注記

発行済株式の種類及び総数に関する事項

発行済株式

普通株式（発行済株式）

前期末株式数	928,000	株
当期末株式数	928,000	株